



鳥瞰イメージ

市内における施設の位置付け

新たな拠点となる本施設は、既存施設である市民交流センターの交流機能を継承した上で、市の東部に点在している複数の施設を複合化して機能を集約することで、様々な人に交流の場を提供するとともに、一元化された行政サービスを行うことができる「交流拠点」として整備します。

交流によって人と人がつながり、施設の継続的利用によって人と人の環がひろがり、施設での交流や経験によって人と人の絆が深まることを目指し、本施設を中心とした「居場所」を創出します。



施設正面イメージ

物件名 市民総合交流拠点施設

所在地 東京都昭島市玉川町四丁目3番1ほか2筆
 建築主 昭島市

■設計
 建築 株式会社環境デザイン研究所
 構造 有限会社金箱構造設計事務所
 設備 株式会社システムプランニングコーポレーション

■建築概要

主要機能 貸室・相談室、東部出張所、図書館分館、東部地域包括支援センター、商工会・勤労市民共済会、カフェ、防災倉庫

敷地面積 2277.43㎡
 建築面積 905.16㎡
 延床面積 2066.71㎡
 構造 鉄筋コンクリート造 及び 一部鉄骨造 基礎免震構造
 規模 地上3階

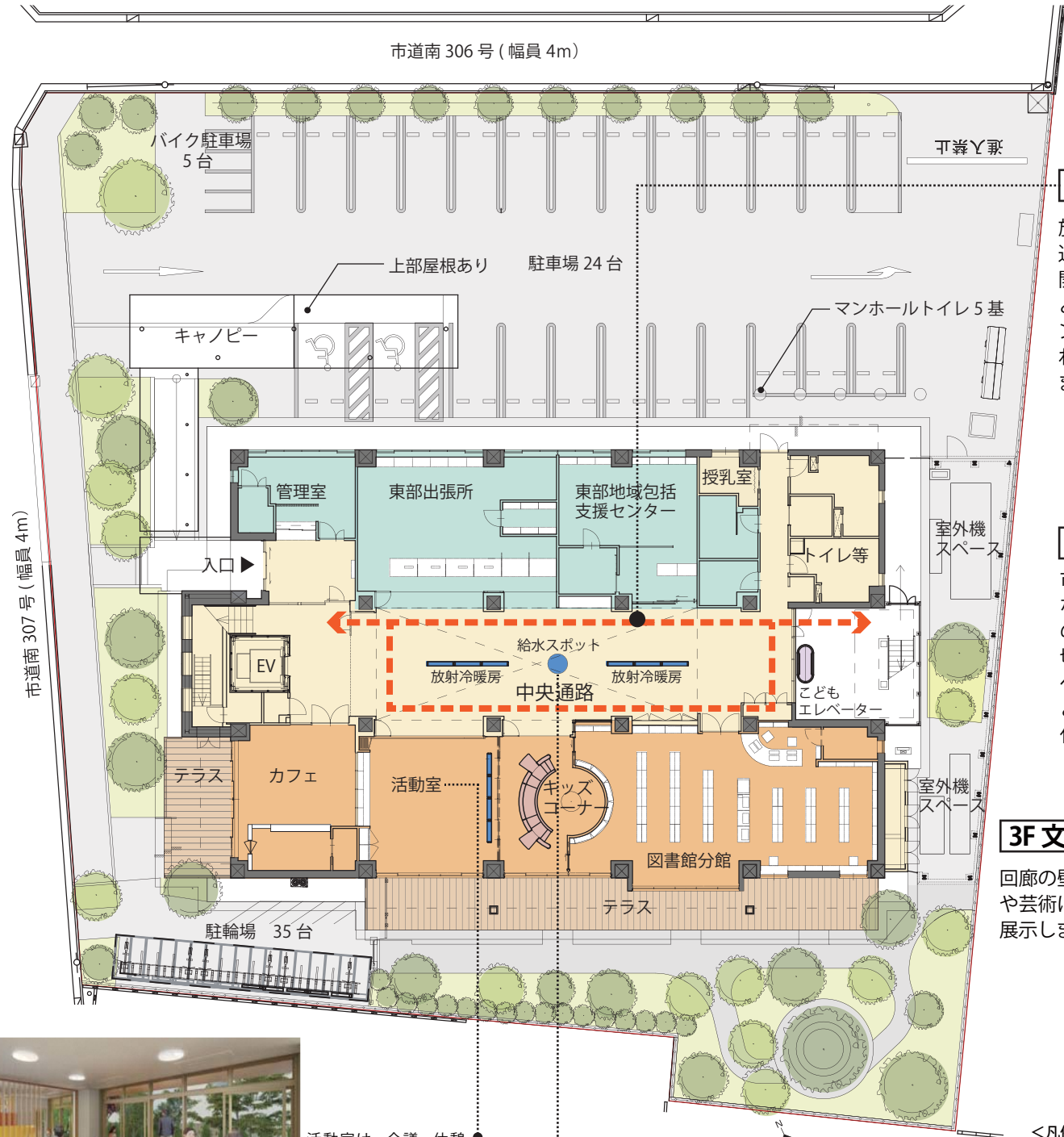


市民総合交流拠点施設 設計概要

設計期間 令和3年(2021年)11月～令和5年(2023年)8月
 工事期間 令和5年(2023年)12月～令和7年(2025年)8月

東西を貫く施設の軸を中心とした明快なゾーニング計画

1・2階は、施設の背骨となる軸を東西方向に貫き、吹き抜けを持つ共用ゾーンを中心に南側を交流ゾーン、北側を業務ゾーンとする明確でわかりやすいゾーニング計画としています。



1F 中央通路

施設の中心となる中央通路は、吹き抜けのある開放的な空間にすることで、全体がエントランスホールとなり、訪れる利用者を迎え入れます。

2F 交流の回廊

市民、学生、事業者など、様々な利用者の回遊を促進し、適切な場所にフリースペースを配置することで、人の流れに変化が生まれます。

3F 文化・芸術の回廊

回廊の壁面を活用して、文化や芸術に関連する作品などを展示します。



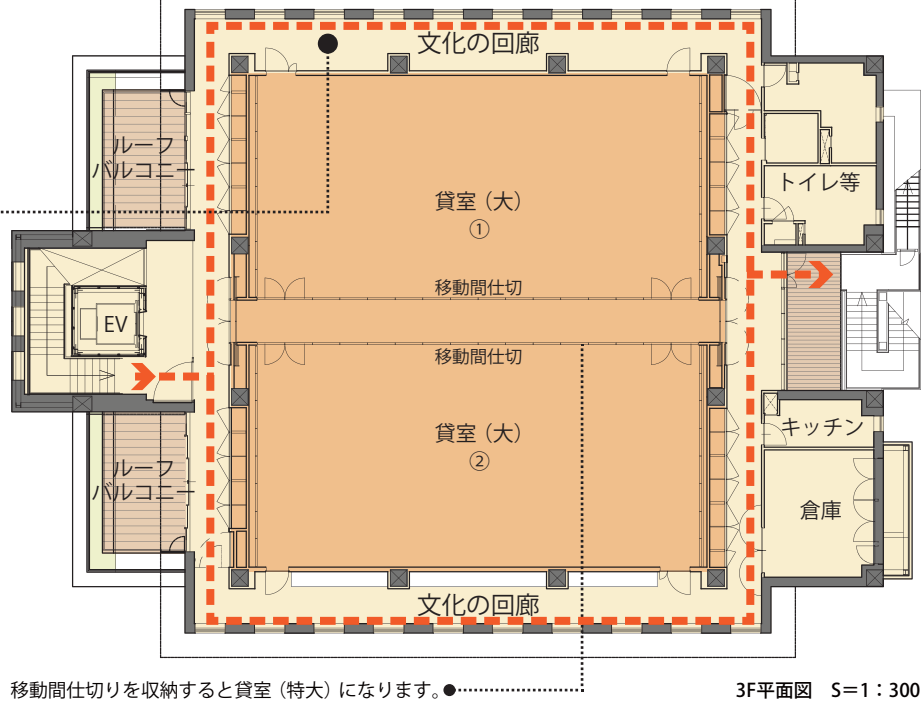
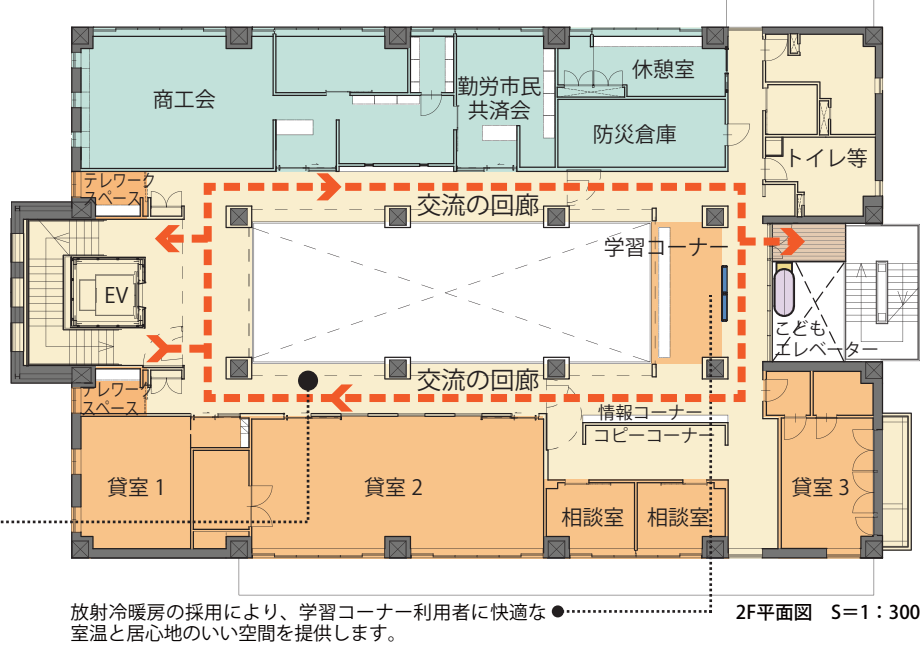
活動室は、会議、休憩、作業、ワークショップ等のイベント、選挙などさまざまな用途に対応するため、フリースペースとしました。

様々な利用を想定した貸室

特徴を持たせた貸室にすることで、利用者の利便性向上及び稼働率向上を図ります。3階にある貸室は、多くの人が使用でき、宴会やイベントを開催できる大規模な貸室です。

■想定定員数

	貸室1	貸室2	貸室3	相談室	貸室(大)①	貸室(大)②	貸室(特大)
室仕様	上足利用	会議等	簡易防音	相談等	講義等	軽運動等	立食等
定員	約20人	約40人	約15人	約4人	約90人	約90人	最大300人



整備方針の三大コンセプト



1. 新しい交流のあり方 (交流拠点) ~人が集う施設~

市民をはじめ、勤労者、地元企業、地域の団体等、様々なヒトに交流の場や創造の場を提供することで、新しい交流が生まれ、その交流を通じて多種多様な連携、協力が創出されていく施設を目指します。

2. 施設の複合化と機能の集約 (機能集約) ~人に身近な施設~

施設の複合化により、多くの機能(サービス)が集約し、これまで別々の施設で行っていたサービスを一つの施設で利用できるなど、利用の幅が大きく広がります。東部地域において、市民に身近な行政サービスの提供や福祉の増進など、利便性の向上を図った施設を目指します。

3. 予期せぬ危機や新時代に備える (防災拠点) ~人が頼る施設~

大規模災害発生時などの際、地域の方が安全で安心な建物として避難できるとともに、東部地域の防災拠点としての機能を備え、予期せぬ危機に対応できる施設を目指します。

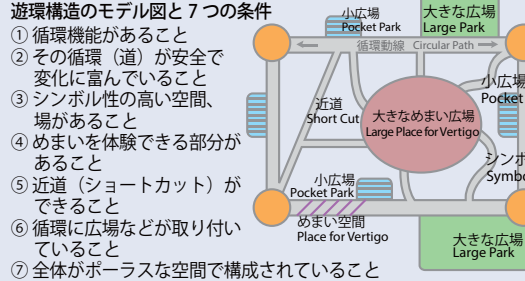
交流意欲を喚起する空間づくり

「遊環構造理論」による回遊性のある建築計画

交流しやすい空間とは、遊びに来て楽しい、歩き回れる空間構成になっていることです。それぞれの目的の所だけを利用するのではなく、他の人達、若い人も高齢者も子どもたちに興味を持てるような空間のしつらえが大切です。

建築計画の主旨

交流拠点：遊環構造理論による回遊性のある建築計画とすることで、交流意欲を喚起する空間をつくります。機能集約：集約する機能を体系別に分類し、各機能を最適な位置に整理した建築計画です。



安全で安心な施設

免震構造と長寿命化

計画地は浸水想定区域外（水害対策）にあり、計画建物は低層（風害対策）のため、地震対策を中心に検討しました。加えて、本施設を東部の防災拠点として位置付けていることから、施設の機能維持が重要であることも考慮に入れ、免震構造を採用しました。構造形式は、空間的可変性が高く平面計画の自由度が高い構造壁のないラーメン構造を計画しています。

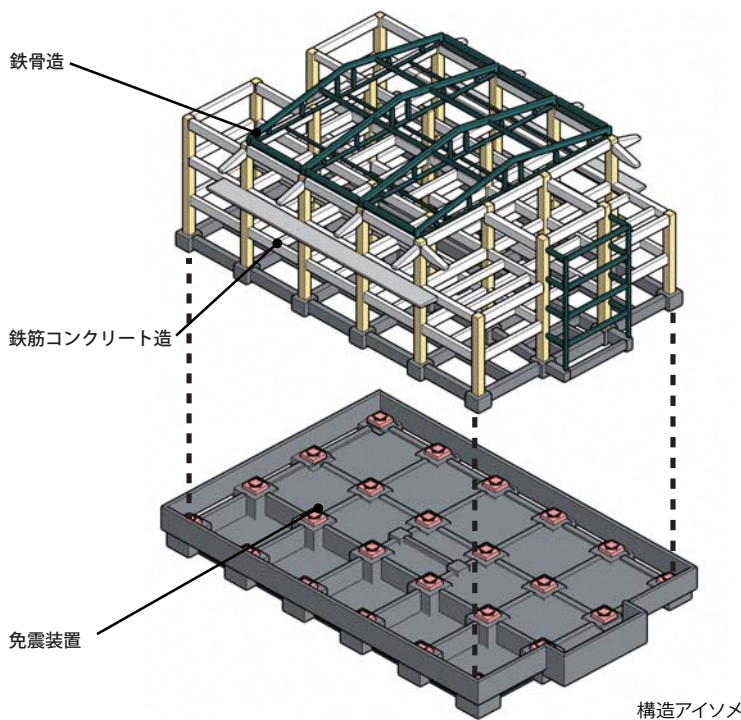
なお、免震構造は地震エネルギーの影響を受けにくいいため、建物の長寿命化にもつながります。

・ 架構計画

左右対称の架構に加え、柱間隔を均一化することで、構造体にかかる力を全体的に分散した架構計画にしています。局所的な負担を避けることにより、躯体劣化の軽減を図ります。

・ 一部鉄骨造の採用

3階貸室を大空間にするため、屋根を軽量化して柱間隔を広げ、構造の合理化を図ります。また、躯体用防水に比べ耐用年数の長い金属屋根にすることで、施設の更新性向上につながります。構造合理化と更新性向上を考慮した結果、一部に鉄骨造を採用しました。



可変性のある施設

避難所機能

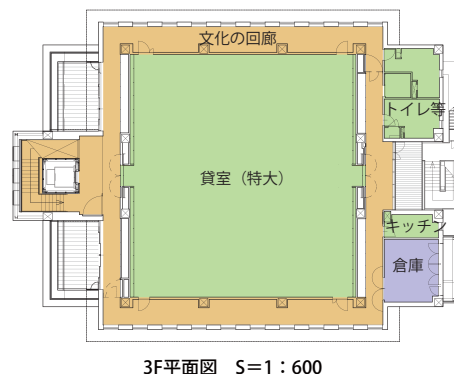
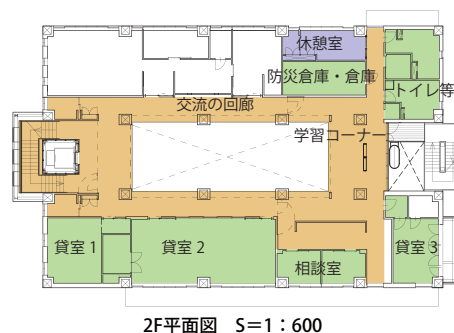
災害時には貸室等を避難所に機能転換して対応します。ライフライン寸断の対策として、受水槽・自家発電設備等により3日分のライフラインを確保しています。

市役所本庁舎が被災し立ち入ることが出来ない場合は、本施設が災害対策本部の代替施設として役割を担います。

また、市役所本庁舎に支障がない場合においては、東部地域の防災拠点として機能する計画にしています。

通常時の諸室	災害時の機能転換	収容人数(想定)
中央通路、活動室	災害対策本部の代替施設	
東部出張所、図書館分館	職員待機場所	
カフェ、学習コーナー	配給スペース	
相談室	救護室	
活動室	居住スペース	24人
貸室 1～3	居住スペース	57人
貸室 (特大)	居住スペース	191人

・ 災害時自家発電機による電力供給



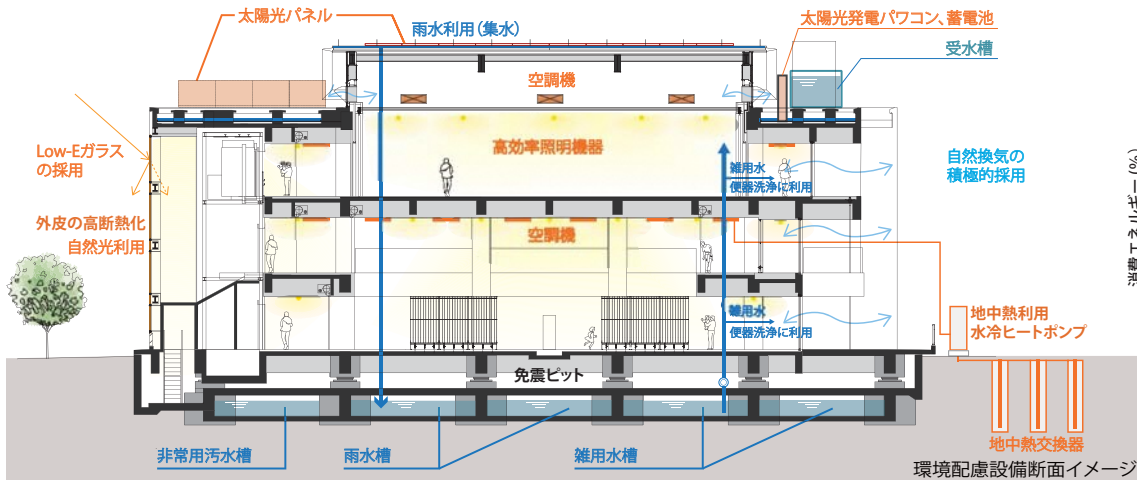
<凡例>

電灯+コンセント 発電機電源100%
電灯+コンセント 発電機電源50%
電灯+コンセント 発電機電源30%
電灯+蓄電池コンセント (電灯割合30%程度)

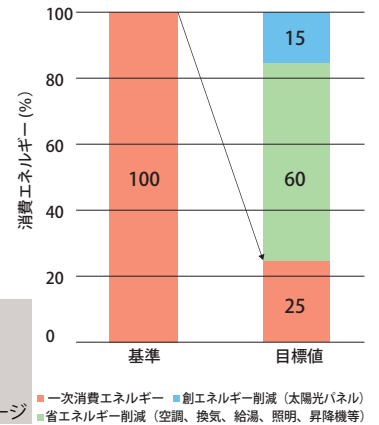
環境に配慮した施設

Nearly ZEB を目標設定

「2030年カーボン25(2030年までに市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量75%削減)」の実現に向けて、建築物におけるエネルギー負荷の低減、設備の効率化による「省エネルギー」と、再生可能エネルギー導入による「創エネルギー」により、一次エネルギー消費量を75%以上削減するNearlyZEBを目標とした環境に配慮した施設を目指します。



Nearly ZEB 取得省エネ削減目標値



創エネルギー

- 再生可能エネルギーの導入
屋根に設置した太陽光パネルによりエネルギー創出

ZEBのみえる化

- 太陽光と地中熱のデータ収集・可視化用モニターを設置
- 環境に配慮した取組を発信

省エネルギー

- 外皮性能の向上による負荷の抑制
Low-E ガラスの採用、庇などによる熱負荷の抑制 など
- 自然エネルギー利用
自然光による採光、自然換気、地中熱利用、雨水の積極的活用
- 設備システムの高効率化
高効率照明の採用、高効率変圧器による電力損失の最小化

こどもを中心とした居場所

キッズコーナー

こども達が落ち着いて本を読むよう児童書コーナーを設置しました。その周囲には遊具があり、回遊して遊ぶこともできます。



キッズコーナーイメージ

こどもエレベーター

東側の屋外階段の近くには、1階から2階まで続く昇降ネット遊具を設置しました。安全性が確保された空間で、こども達は自由に遊ぶことができます。



こどもエレベーターイメージ



観賞と散策の庭

花咲く樹木や草花を中心に植栽を計画し、季節の変化に合わせて色彩豊かな風景を演出することができます。また、サークルベンチを設置して、訪れる人々が心地よいひとときを楽しむことができる空間を提供します。